

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491000210	事業の開始年月日	平成16年1月1日
		指定年月日	令和2年4月1日
法人名	社会福祉法人豊笑会		
事業所名	ライフインハウス平戸		
所在地	(〒244-0803) 神奈川県横浜市戸塚区平戸町1156-2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和7年7月26日	評価結果 市町村受理日	令和8年2月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ご利用者の今までの生活習慣を大切に、日常生活の中で無理のない範囲で出来ることを行っていただき、出来ないところだけを補うようにし、「穏やかな微笑みの介護」をモットーにし、ご利用者一人ひとりのペースにできるだけ合わせて、必要な支援を行っていくように心掛けています。
- 季節ごとの行事やボランティアによる催し、毎日のレクリエーションを通じて単調な生活にならないように工夫しています。コロナ禍の影響で開催中止となっていますが、ご利用者とご家族がともに参加していただく「納涼祭」などの大きな行事も毎年企画されてきました。こうした行事では、法人内の事業所同士が協力し合い、大いに楽しんでいただいています。
- 天気の良い日は、出来るだけ屋外に出るようにし、散歩や買い物を楽しんでいただけるように努力しています。
- 歌がお好きなご利用者が多いため、いつも歌声が響いている明るいホームです。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年11月17日	評価機関 評価決定日	令和8年2月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

JR東海道線「東戸塚」駅から神奈中バスに乗り、「坂戸口」停留所から徒歩約5分の住宅地域に位置します。道路の向かい側に林が広がる緑豊かな環境にあり、比較的清閑な場所にあります。

<優れている点>

理念「穏やかなほほ笑みの介護」のもと、無理強いをしない見守りと傾聴を軸としたケアを徹底しています。具体的には、利用者の要望に応じて職員が食材調達から調理までを行う「手作り特別食」を月数回提供するなど、個々の願いを形にする個別支援が、地域住民からの高い信頼につながっています。また、運営の透明性を高めるため、地区内の他法人グループホームと運営推進会議に相互出席し、介護技術や災害対策の知見を交換することで、地域全体のケアの質を底上げしています。生活環境面においても、制作の得意な職員のリードで利用者と共に作成した季節の装飾や写真を展示し、共創による活気ある空間づくりを実現しています。

<工夫点>

医療連携を円滑に開始するため、入居時に管理者と看護師が従前のかかりつけ医を直接訪問しています。書類には現れにくい疾病の背景や細やかな留意事項を直接聞き取ることで情報の質を高め、協力医へ橋渡しを行っています。この調整により、環境変化による健康リスクを抑え、入居直後から安定した医療支援を受けられる利点が生じています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ライフインハウス平戸
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人および事業所の理念をご家族や来訪者の目に留まりやすい場所（玄関やワーカーの入口）に掲示している。また、職員は日頃からそれらを目にすることとなり、理念や目標の実現に向けた各職員への意識づけも併せて図られる形となっている。	理念である「穏やかなほほ笑みの介護」を軸に、利用者のペースを大切にしたい、無理強いをしない支援に取り組んでいます。理念は常に目に触れる場所へ掲示しているだけでなく、会議の席でも確認し合うことで、職員全員が同じ意識を持ってケアにあたれる体制を整えています。こうした日々の積み重ねが、利用者一人ひとりに寄り添う支援の基礎となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・他のグループホームとの情報の共有や交換研修を行っている。 ・納涼祭などの催事やレクリエーションに地域の方の参加を呼びかけ、協力・参加していただいている。 ・町内の夏祭りなどに参加させていただいている。R2年から中止中	散歩や買い物を通じて近隣住民と挨拶を交わすなど、地域との自然な関わりを大切にしています。実際に近隣から入居する方が複数名いるなど、地域に根差した存在とし信頼を得ています。また、近隣にある同業の介護施設とも相互に情報交換を行っています。住民や専門機関との多角的な連携を深めることが、利用者の孤立を防ぎ、安心感のある暮らしにつながっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	散歩の際などの地域の方々との触れ合いを通して、少しでも認知症への理解が深まっていくよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で活動状況を報告し、各委員より意見をいただいている。また、改善すべき事柄については、職員会議等で随時検討するようにしている。	2ヶ月ごとに開催する運営推進会議には、地域包括支援センターや町内会、家族に加え、他法人の同業施設も参加しています。事業所の活動報告を行うだけでなく、多角的な視点から意見や情報を交わすことで、運営の透明性を確保しています。会議で得られた助言や共有事項は、職場会議の席でポイントを絞って職員へ通知しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターのご担当者には、毎月、定期的に来所していただいております。その際には必要な事柄についてご相談をさせていただいております。運営推進会議を送付している。	区役所の担当部署や地域包括支援センターと、日頃から連絡を取り合っています。運営推進会議には地域包括支援センターの職員が出席しており、事業所の状況を共有するとともに、専門的な視点から助言を得る機会を確保しています。また、行政等から届く研修会や講演会の案内を活用し、情報収集に努めています。こうした公的機関との継続的な関わりを、適切な事業所運営と職員の知識向上につなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の廃止に関する研修を行ない、職員間で正しい理解を共有して、不適切な行為の抑止に努めている。	身体拘束をしないケアをするため、計画的な研修を通じて知識の習得と理解の促進を図っています。特に、無意識に出てしまいがちな不適切行為の抑制に力を入れ、事例に基づいたケーススタディや現場でのOJTを通じて、具体的な対応力を養っています。また、3ヶ月ごとに身体的拘束適正化委員会を開催し、ケア状況の把握と再発防止策を検討しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止研修を行い、職員同士の話し合いの機会を設けて、虐待防止の徹底を図っている。	職員研修での学びを深めるだけでなく、日々のミーティングや利用者の生活場面から事例を収集し、再発防止に向けたケーススタディを重ねています。現場の気づきを具体的な検討材料とすることで、不適切ケアの芽を摘み取る意識を高めています。また、3ヶ月ごとに虐待防止委員会を開催し、実態の把握と今後の支援への反映を行っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を活用している利用者もいる。必要があれば、その都度、家族等からの相談に応じ、アドバイスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書、重要事項説明書に基づき、詳細な説明を心掛けている。また、改定時にも、十分な理解が得られるよう丁寧な説明を心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃の会話の中からも意見や要望をくみ取り、事業所の運営に反映できるよう努力している。	来所時の面会や行事の際の交流に加え、運営推進会議を意見収集の場として活用しています。特に運営推進会議は外部委員も出席するため、家族が意見を出しやすい環境を整えており、運営の透明性確保にも寄与しています。寄せられた要望や意見については、職員ミーティングでの検討や法人との協議を迅速に行い、適切な対応を講じています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が日々、職員からの意見を聞いている。フロア会議には管理者も参加し意見の交換を行っている。意見をまとめて本部に報告している。	日々の業務における対話に加え、定期的なミーティングや人事調査を通じて、職員の意見や気づきを汲み取っています。収集した意見はフロアミーティングやリーダー会議で検討し、現場の状況に応じた改善策を立案しています。事業所内だけで完結できない課題については、法人と協議・調整を重ね、組織全体としての解決を図っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者からの報告を受けたり、法人法務部職員が定期的に事業所を訪問し醜状状況の把握に努め、職場環境の改善、整備をしている。	明るく働きやすい職場を目指し、風通しの良い組織づくりに努めています。会議や日常業務ではリーダーが聞き役に徹することで、上下関係を感じさせないフラットなコミュニケーションを促進し、職員が意見を出しやすい雰囲気を整えています。労務面においても、残業時間はほぼなく、休暇取得も本人の希望を最大限尊重する体制を敷いています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月研修を行っている。外部の研修にも参加をしている。	年間教育計画に基づき、eラーニングや動画教材を活用して、全職員が知識やスキルを高められる環境を整えています。外部研修についても、本人の意欲や希望に応じて参加を促し、より専門的な学びを後押ししています。キャリアパスの構築においては、人事調査を通じて本人の将来像を確認しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	隣接する別法人のグループホームとは、防災訓練や各種行事等で日常的に情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接シートを参考にしつつ、ご本人との会話のやりとりや表情・態度の変化などから要望等を適切に把握し、より良い関係作りができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ヒアリングを通して、それぞれのご家族がもつ不安や要望をくみ取れるよう心掛けている。また、ご家族が望んだ時にいつでも面会に来れる環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームで出来ることと出来ないことを説明し、ご本人とご家族にとって最良と思われる支援の内容を、共に考えながら導き出せるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常の家事作業は、利用者各々の力を活かしながら、可能な限り一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の状況や希望を随時ご家族に伝え、外出や買い物などの同行をお願いしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係者が気軽に面会に来ていただけるように、オープンな環境作りや対応を心掛けている。	入居時のアセスメントで得た情報を土台に、日々の会話から拾い上げた情報を加え、馴染みの人や場所とのつながりを維持できるよう努めています。近隣から入居している方が多いという特性を活かし、面会への来訪者を温かく受け入れるオープンな体制を整えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席を工夫したり、時には職員も交えた茶話会を開き、互いに関わりがもてるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後、自宅へ戻れた利用者は少ないのが現実だが、電話等で連絡を取るなどのフォローはしている。長期入院のために退所した利用者については、入院先を訪ね、再入所の可能性などについてご家族と相談するケースもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人との会話のやりとりや表情・態度の変化などを通して、希望や意向を把握できるよう努めている。	入居時のアセスメントだけでなく、日々の生活や会話を通じて利用者の意向を汲み取っています。特に入浴中の何気ない会話や散歩の合間など、心身がリラックスした瞬間に表れる本音や表情の変化を大切な気づきとして捉えています。新たに把握した思いは、申し送りノートへ記入し、職員全員で共有する仕組みを整えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴などを台帳にまとめ、職員がいつでも目を通せるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りや気づきノートを活用し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	課題に直面するたびに話し合いをしている。	入居時のアセスメントを土台に、家族や医療関係者の意見を取り入れた介護計画を作成しています。短期・長期の目標を明確にし、状態の変化に合わせて見直しを行うことで、最適な支援が提供できる体制を整えています。また、訓練だけでなく、タオルたたみなどの家事動作や、立ち上がり・歩行といった日常の動きをリハビリの一環として計画に盛り込んでいます。日々の生活の中で自然に身体を動かす工夫が、利用者の意欲を引き出し、身体機能の維持につながっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に毎日記録を残し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族のニーズに柔軟に応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルス感染対策の一環で、外部団体等の活動の受け入れを停止せざるを得ない状況が続いているが、ピアノ演奏・歌唱会等、以前行われていたボランティア行事をいずれは再開できるよう準備しておきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診時に職員が付き添い、ご本人やご家族の希望を主治医に伝えるようにしている。	協力医と訪問歯科医が月2回、訪問看護が毎週来所し、利用者の健康管理を行っています。眼科や皮膚科などの専門的な受診が必要な場合は職員が同行し、得た医療情報は「受診報告書」に記録して、全職員が状況を把握できる体制を整えています。入居前の主治医を継続できる仕組みも整えています。現在は全利用者が協力医を主治医としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現在、すべての利用者を対象に週1回の訪問看護が実施されており、その際、看護師に日常の健康管理について報告・相談を行っている。また、利用者に健康上の問題が生じた場合は、その都度、看護師に連絡を入れ、対応を相談する体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特変等での入院時には、速やかに介護サマリーを送付するなど、情報提供に努めている。また、通院受診時にもその都度、医師や看護師と情報交換を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者やご家族の意向を踏まえ、重度化した場合の対応について職員間で話し合い、方向性を考えている。重度化し、対応が困難な場合は、法人内の他サービスで支援が可能かどうか、随時検討できる体制を整えている。	入居時に、本人や家族へ「重度化対応・終末期ケア対応指針」を用いて説明を行い、同意を得ています。協力医が重度化と判断した際は、家族の意向を改めて確認し、主治医、看護師、職員が連携します。家族の思いに寄り添いながら、終末期ケアの支援にあたっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時に必要な処置、対応をミーティング等で確認し合っている。事故発生時には、管理者、ユニットリーダーと連絡を取り、その指示のもと適切に対応できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、管轄消防署の指導による消防訓練を実施している。 災害時用に食材、水分、スプリンクラーの設置、発電機の設置をしている。	年2回、昼間と夜間の両方の時間帯を想定し、職員が参加して避難訓練を実施しています。また、災害時により強固な支援体制を築くため、近隣にあるグループホームとの相互協力についても検討を進めています。ハード面では、食料や飲料水の備蓄品を事務所内に常備し、停電対策として発電機を設置しています。ソフト・ハード両面からの備えを、有事の際の行動と利用者の安全確保につなげています。	災害備蓄品はリストを作成して、品名、数量、消費期限を一元管理することが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常日頃から、人格やプライバシーを重視する姿勢・意識をもって、各利用者への声かけや対応を行っている。また研修も行っている。	入浴時は同性介助を基本とし、入浴後も速やかにタオルで肌を覆うなど、羞恥心に配慮した支援を行っています。排泄の誘導においても、小声での声掛けをしています。失敗があった際も、周囲に気づかれないよう浴室やトイレへ誘導してから対応するなど、自尊心を傷つけないよう注意を払っています。また、一人で過ごしたいという意向を確認したときは、居室へ案内して静かな環境を整えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何事に対しても強要などしたりすることなく、利用者ご本人が自己決定していただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	以前暮らしていた自宅と同じように日々を過ごしていただけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服はできる限りご自分で選んで着用していただくようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付け、片付けなどをできるだけ利用者と一緒に行うようにしている。また、時には各利用者の好きな食べ物をお聞きし、職員が買ってきたり、外食したりする機会ももつようにしている。	食事は職員が調理を行い、音や匂いを通じて食欲を喚起する環境づくりに努めています。また、調理専門員が利用者の要望を聞き取り、特別な献立を用意するなど、好みに応じた支援も行っています。誕生日などにはケーキを囲んで皆で祝うほか、おせち料理などの季節の行事食の提供にも力を入れています。日常と特別感の両立を、毎日の食事を楽しむための大切な要素としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量をチェック表に記録して摂取量を把握するようにしている。また、咀嚼や嚥下機能の状態により、食材にとろみをつける、刻みにする等の対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご本人の力に応じた口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科サービスによるケアも利用できるようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレに誘導し、失敗することなく排泄ができるよう支援している。	排泄の誘導は、画一的な時間誘導ではなく、利用者のタイミングやそわそわした様子などのサインを捉え、小声での声掛けをしています。トイレ内では、便座からの立ち上がり動作を筋力維持の機会と捉え、できる限り座って排泄できるよう支援することで、残存機能の活用を促しています。一方で、夜間帯については休息を優先し、ゆっくり眠れるよう本人の状態に合わせてポータブルトイレやオムツを併用するなど、柔軟に対応しています。こうした生活リズムに合わせた支援が、心身の負担軽減し、日中の活動性の維持につながっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日課として体操を取り入れ、可能な利用者には歩行練習の呼びかけを行っている。また、十分な水分摂取量を確保できるよう努め、下剤のみに頼らずに良好な排泄リズムが生まれていくよう日々取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	「お風呂に入りたい」という利用者の希望を確認し、入浴していただいている。数種類の入浴剤を用意し、色と香りも併せて楽しんでいただいている。	入浴は週2回を基本としていますが、希望があれば回数を増やすなど柔軟に対応しています。同性介助や入浴剤の使用といった要望を取り入れ、本人がリラックスして過ごせる環境を整えています。入浴を拒む利用者には、声掛けのタイミングを変えるなどの配慮を行い、無理なく入浴できるよう支援しています。入浴中の職員との昔話は、本人の安心感や満足感を高める大切な機会となっており、清潔保持とあわせて精神的な充足にもつなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者が使い慣れた、好みの寝具を使って休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服用中の薬の情報を台帳にファイリングし、職員全員が参照できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	面接シートを参考にしつつ、ご本人との会話の中から情報を得て具体的な支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	陽気の良い季節には可能な限り外出する機会を設けるよう心掛けている。また、遠出を希望する利用者に対しては、ご家族の協力を得て同行をお願いしている。	近隣のコンビニエンスストアでの買い物や、寺への散歩など、外出する機会を作っています。正月には地域特性を活かして箱根駅伝を沿道で観戦するなど、季節の行事を地域住民と共に楽しむ工夫をしています。また、ベランダでの外気浴や庭の花壇での園芸を通じて、施設内においても自然に触れる時間を確保しています。近隣からの入居者が多い環境を活かし、家族との散歩、外食、墓参りといった個別の外出も積極的に支援しており、住み慣れた地域での生活継続につなげています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人やご家族の意思・希望があれば、金銭はご本人に管理していただいている。買い物の際は職員が付き添うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由にかけていただいている。また、ご家族や友人・知人から届く手紙については、ご本人に手渡していつでも見返せるようにし、返信したいと申し出があれば職員が必要なお手伝いをして手紙を出せるようにしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節・歳時に合わせた飾りつけをし、カーテンや家具には落ち着いた色調の品を採用して、利用者にとって心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	リビングの壁飾りは、春夏秋冬の季節に合わせて利用者と職員が共同で作成し、季節感のある空間を作っています。対面キッチンの特性を活かし、調理の匂いや音がリビングに直接伝わるようにすることで、生活の活気や食欲を促す環境を整えています。日課としている午前10時のビデオ体操では、集団での活動を通じて自然に体を動かせる場を提供しています。また、トイレや各居室に視認性の高い名札を設置するなど、本人が場所を迷わずに生活できるような環境面から自立を支え、安心感につなげています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前にソファを置き、ゆっくりテレビを観たり、利用者同士のおしゃべりなど寛いだ時間を過ごせるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の使い慣れた家具をご持参いただき、居室内のレイアウトは必ずご本人とご家族の意見を最大限に尊重して決めるようにしている。	居室には、使い慣れた家具や冷蔵庫、テレビなどを持ち込めるようにし、これまでの生活習慣を継続できる環境を整えています。安全面では、転倒リスクが高い人に対して家族から了解を得た上で見守りセンサーを設置し、床には緩衝カーペットを敷くなどの対策を講じています。また、夜間の排泄に不安がある利用者にはポータブルトイレを設置するなど、一人ひとりの身体状況や不安に合わせた柔軟な環境づくりを行い、居室内での安心した生活につなげています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを設置し、安全にフロアを移動できるようにしている。また、トイレの場所が分かりやすくなるよう、サインプレートを配置するなどしている。		

事業所名	ライフインハウス平戸
ユニット名	2F

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人および事業所の理念をご家族や来訪者の目に留まりやすい場所（玄関やワーカーの入口）に掲示している。また、職員は日頃からそれらを目にすることとなり、理念や目標の実現へ向けた各職員への意識づけも併せて図られる形となっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループホームとの情報の共有や交換研修を行っている。 ・納涼祭などの催事やレクリエーションに地域の方の参加を呼びかけ、協力・参加していただいている。 ・町内の夏祭りなどに参加させていただいている。R2年から中止中 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	散歩の際などの地域の方々との触れ合いを通して、少しでも認知症への理解が深まっていくよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で活動状況を報告し、各委員より意見をいただいている。また、改善すべき事柄については、職員会議等で随時検討するようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターのご担当者には、毎月、定期的に来所していただき、その際には必要な事柄についてご相談をさせていただいている。運営推進会議を送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の廃止に関する研修を行ない、職員間で正しい理解を共有して、不適切な行為の抑止に努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止研修を行い、職員同士の話し合いの機会を設けて、虐待防止の徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を活用している利用者もいる。必要があれば、その都度、家族等からの相談に応じ、アドバイスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書、重要事項説明書に基づき、詳細な説明を心掛けている。また、改定時にも、十分な理解が得られるよう丁寧な説明を心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃の会話の中からも意見や要望をくみ取り、事業所の運営に反映できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	成年後見人制度を活用している利用者もいる。必要があれば、その都度、家族等からの相談に応じ、アドバイスをしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	契約書、重要事項説明書に基づき、詳細な説明を心掛けている。また、改定時にも、十分な理解が得られるよう丁寧な説明を心掛けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日頃の会話の中からも意見や要望をくみ取り、事業所の運営に反映できるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	隣接する別法人のグループホームとは、防災訓練や各種行事等で日常的に情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接シートを参考にしつつ、ご本人との会話のやりとりや表情・態度の変化などから要望等を適切に把握し、より良い関係作りができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ヒアリングを通して、それぞれのご家族がもつ不安や要望をくみ取れるよう心掛けている。また、ご家族が望んだ時にいつでも面会に来れる環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームで出来ることと出来ないことを説明し、ご本人とご家族にとって最良と思われる支援の内容を、共に考えながら導き出せるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常の家事作業は、利用者各々の力を活かしながら、可能な限り一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の状況や希望を随時ご家族に伝え、外出や買い物などの同行をお願いしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	関係者が気軽に面会に来ていただけるように、オープンな環境作りや対応を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席を工夫したり、時には職員も交えた茶話会を開き、互いに関わりがもてるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後、自宅へ戻れた利用者は少ないのが現実だが、電話等で連絡を取るなどのフォローはしている。長期入院のために退所した利用者については、入院先を訪ね、再入所の可能性などについてご家族と相談するケースもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人との会話のやりとりや表情・態度の変化などを通して、希望や意向を把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴などを台帳にまとめ、職員がいつでも目を通せるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りや気づきノートを活用し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	課題に直面するたびに話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に毎日記録を残し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族のニーズに柔軟に応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルス感染対策の一環で、外部団体等の活動の受け入れを停止せざるを得ない状況が続いているが、ピアノ演奏・歌唱会等、以前行われていたボランティア行事をいずれは再開できるよう準備しておきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診時に職員が付き添い、ご本人やご家族の希望を主治医に伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現在、すべての利用者を対象に週1回の訪問看護が実施されており、その際、看護師に日常の健康管理について報告・相談を行っている。また、利用者に健康上の問題が生じた場合は、その都度、看護師に連絡を入れ、対応を相談する体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特変等での入院時には、速やかに介護サマリーを送付するなど、情報提供に努めている。また、通院受診時にもその都度、医師や看護師と情報交換を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者やご家族の意向を踏まえ、重度化した場合の対応について職員間で話し合い、方向性を考えている。重度化し、対応が困難な場合は、法人内の他サービスで支援が可能かどうか、随時検討できる体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時に必要な処置、対応をミーティング等で確認し合っている。事故発生時には、管理者、ユニットリーダーと連絡を取り、その指示のもと適切に対応できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、管轄消防署の指導による消防訓練を実施している。 災害時に食材、水分、スプリンクラーの設置、発電機の設置をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常日頃から、人格やプライバシーを重視する姿勢・意識をもって、各利用者への声かけや対応を行っている。また研修も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何事に対しても強要などしたりすることなく、利用者ご本人が自己決定していただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	以前暮らしていた自宅と同じように日々を過ごしていただけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服はできる限りご自分で選んで着用していただくようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付け、片付けなどをできるだけ利用者と一緒にしている。また、時には各利用者の好きな食べ物をお聞きし、職員が買ってきたり、外食したりする機会ももつようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量をチェック表に記録して摂取量を把握するようにしている。また、咀嚼や嚥下機能の状態により、食材にとろみをつける、刻みにする等の対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご本人の力に応じた口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科サービスによるケアも利用できるようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレに誘導し、失敗することなく排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日課として体操を取り入れ、可能な利用者には歩行練習の呼びかけを行っている。また、十分な水分摂取量を確保できるよう努め、下剤のみに頼らずに良好な排泄リズムが生まれていくよう日々取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	「お風呂に入りたい」という利用者の希望を確認し、入浴していただいている。数種類の入浴剤を用意し、色と香りも併せて楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者が使い慣れた、好みの寝具を使って休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服用中の薬の情報を台帳にファイリングし、職員全員が参照できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	面接シートを参考にしつつ、ご本人との会話の中から情報を得て具体的な支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	陽気の良い季節には可能な限り外出する機会を設けるよう心掛けている。また、遠出を希望する利用者に対しては、ご家族の協力を得て同行をお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人やご家族の意思・希望があれば、金銭はご本人に管理していただいている。買い物の際は職員が付き添うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由にかけていただいている。また、ご家族や友人・知人から届く手紙については、ご本人に手渡していつでも見返せるようにし、返信したいと申し出があれば職員が必要なお手伝いをして手紙を出せるようにしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節・歳時に合わせた飾りつけをし、カーテンや家具には落ち着いた色調の品を採用して、利用者に心地よく過ごしていただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前にソファを置き、ゆっくりテレビを観たり、利用者同士のおしゃべりなど寛いだ時間を過ごせるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の使い慣れた家具をご持参いただき、居室内のレイアウトは必ずご本人とご家族の意見を最大限に尊重して決めるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを設置し、安全にフロアを移動できるようにしている。また、トイレの場所が分かりやすくなるよう、サインプレートを配置するなどしている。		

2025年度

事業所名

作成日： 2026年 2月16日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 災害時に必要な備蓄品の用意。	災害備蓄品はリストを作成して、品名、数量、消費期限を一元管理すること。	備蓄品を揃え、職員全員が把握出来るようにリストを作成する。	12ヶ月
2	49	○日常的な外出支援 人員不足により、シフト上、外出支援に影響が出ている。	人員が揃っている時に、外出支援を行う。	職員が少なく、時間的に余裕はないが、休憩時間をズラすなど工夫をして、進んで外出時間を作っていく。	12ヶ月
3	10	○職員を育てる取組み 勤続年数の長い職員が退職し、現在いる職員の意識と知識の向上が必要。	1人1人が責任を持ち、意識と知識が向上し、チームケアとして協力し合える。	外部研修や職場研修を行う。年に2回の職員面談を行い、一人一人の目標を設定し確認する。	12ヶ月